

「タイ・チュラーロンコーン大学サマースクール参加報告書」

京都大学文学部2年 山淵あいり

このプログラムで特に重点が置かれていたタイ語講座では、タイで生活するうえで役立つ言葉を多く学ぶことができました。食堂や市場で習いたてのタイ語を実際に使うことができたことは、現地での言語学習ならではの経験であり、毎日のタイ語学習のモチベーションにもつながっていたと思います。現地学生との共同発表では、うまく意思の疎通ができず戸惑うこともありましたが、タイの社会や文化、国民性などを学ぶことができたとともに、チュラーロンコーン大学の学生の日本語能力と情報処理能力の高さに非常に刺激を受けました。悩みながらも一つのプレゼンテーションを完成させられたことは、異なる文化を背景に持つ人々とコミュニケーションをとる能力の向上につながったと思います。実地研修ではタイの寺院や市場、ニューハーフショーなどを見学し、歴史、生活、宗教、文化、観光など多方面からタイ王国について学ぶことができました。

開発が進むバンコクの街には新と旧が共存していました。想像以上に都会的で華やかな高層ビルと、その脇で生きるために必死に働く人々の活気に満ちた風景は、日本ではあまり見られない景色であり非常に新鮮で印象的でした。夜遅くまで人や車でにぎわう街の様子はバンコクの良さであると同時に、多くの課題が山積しているとも感じました。交通、衛生、時間管理など隅々まで整った管理がなされている日本の良さを再確認する良いきっかけにもなったと思います。

2週間海外に滞在し、現地の大学に通ったのは初めての経験でした。現地学生に様々な場所に連れて行ってもらうことで観光ではできない経験を多くすることができたように思います。現地学生と交流する時間が多かったことで、タイ人の寛大で親切な国民性にも触れることができたのは、このSENDプログラムに参加したからこそできた経験だと思います。現地の先生から、タイ社会には、自分本位の世界、気配りの世界、家族の世界の三つの世界があると聞きました。現地の友人の気配りやおもてなしから、友人や家族を大切にするタイ人の温かい国民性を身をもって感じることができました。ただ、時間にルーズであったり、困った状況に陥ってもニコツとわらって「マイペンライ」「サバイサバイ」(Never mind., That's alright.) といってやり過ごしたりする、言いようによっては自分本位とも言える国民性も、楽観的でおおらかな感じがして私は大好きです。

2週間という短い間ではありましたが、伝統あるチュラーロンコーン大学で学び、現地の人々と交流し、タイの様々な地を見学できたことは、私の東南アジアへの関心と問題意識の向上につながりました。タイ語学習のきっかけを得ることができたのも私にとって非常によい出会いだったと思います。異文化をよりよく知るには、実際に現地に赴くことと、現地言語の知識を持つことが必要不可欠であることを実感しました。そして、チュラーロンコーン大学の学生の学習意欲や日本語能力の高さ、海外留学に対する積極性は、私の学習意欲を高める刺激となりました。このプログラムで得た経験と出会い、そして再認識したタイ社会の課題を、今後のタイ語学習や東南アジア研究、その他の学習に必ず生かしていきたいと思っています。

今回このプログラムを通して関わってくださった京都大学、チュラーロンコーン大学の教職員の皆様、現地学生の皆様には、貴重な経験をさせていただき、深く感謝しています。ありがとうございました。